

3. 地域循環共生圏の創造に資するための推進業務

ネットワーク型支援体制による環境整備支援

- ・地域での地域循環共生圏に通じる担い手（団体等）について把握し、地域循環共生圏に関する情報を提供するほか、関係性を構築する。
- ・地域ニーズをふまえた専門的・面的支援を行う。

（1）地域循環共生圏プラットフォームの環境整備支援等業務

●業務目標

地域プラットフォーム活動団体が取組む地域の資源を活用し課題解決に向けた環境整備（構想策定・事業計画策定・ステークホルダーのネットワーク形成）に対し、専門家等と連携し支援を行うことで、事業における成果創出を加速させる。支援にあたっては全国事務局とノウハウ共有し、九州・沖縄の活動団体ネットワークに資する、中間的なプラットフォームの形成を促進させる。

ア、環境整備支援の概要

九州地方環境事務所地域脱炭素創生室、公益財団法人地方経済総合研究所とともに地方支援事務局を構成し、地域ニーズをふまえた支援を行った。また具体的な環境整備支援においては、プラットフォーム活動団体（以下、PF 活動団体）へのヒアリングを行い、環境整備のプロセスに係る支援（構想策定・事業計画策定・ステークホルダーの組織化の各過程に応じた環境整備支援）のための支援計画を策定の上、取組んだ。

九州・沖縄地方における PF 活動団体

	PF 活動団体名	活動地域	備考
1	八女が好き 8C！やめスマ研究所	福岡県八女市	新規
2	株式会社山都竹琉	熊本県上益城郡山都町	新規
3	田主丸・未来創造会議	福岡県久留米市	継続
4	福岡筑後プラスチックリサイクルループ推進協議会	大木町、みやま市、柳川市、筑後市、大川市	継続
5	みやざき SDGs プラットフォーム	宮崎県全域	継続
6	一般社団法人 MIT	長崎県対馬市	事業化支援
7	鹿島市ラムサール条約推進協議会	佐賀県鹿島市	事業化支援

沖縄奄美自然環境事務所管内のPF活動団体

1	コラコラ (Coral Collabo)	沖縄県 石垣市・竹富町	新規
2	西表島農業青年クラブ	沖縄県 西表島	継続
3	徳之島地区自然保護協議会	鹿児島県大島郡徳之島一円	事業化支援

「環境整備」の考え方

地域循環共生圏の創造に向けて取り組むPF活動団体が行う地域人材（キーパーソン）の発掘、地域の核となるステークホルダー（以下：SH）の組織化、事業計画策定に向けた構想の具体化を総称する主体的な活動。

「環境整備支援」の展開

PF活動団体が取り組む環境整備の円滑な推進に向けた中間支援活動を、環境整備支援と位置づけ、広域的な連携づくりを促進させた。

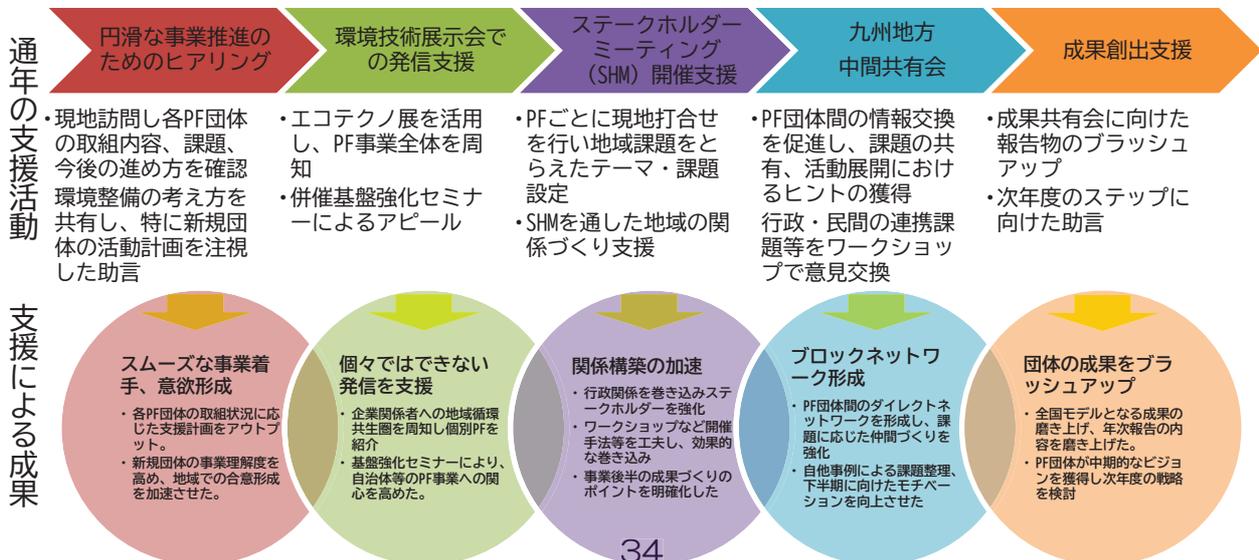
その一環として、地域SHを交えた意見交換会の開催を支援し、PF活動団体が策定する地域循環共生圏構築に向けた事業計画をブラッシュアップし、活動内容に関する専門家による助言など必要な支援・情報提供を行った。

沖縄奄美自然環境事務所所管のPF活動団体については、沖縄奄美支援事務所と請負業者（いであ株式会社沖縄支社）による支援事務局を組織し、環境整備支援が行われた。沖縄奄美支援事務局とは、地域間連携を意識し、随時情報交換を行った。

全国事業としてのプラットフォーム形成に向けた設計・スケジュールを活用しながら、九州地方でのネットワークに向けた企画支援を行い、独自のノウハウ獲得に努めた。

また、全国事務局が開催する共有会、作業部会、事業形成会合等において環境整備支援のノウハウを共有し、活動や支援の質的向上をはかった。

同時に、九州地方のネットワーク形成の場として「エコテクノ2022」へのブース出展や、九州地方中間共有会の対面開催により、九州ブロックの連携強化に努めた。



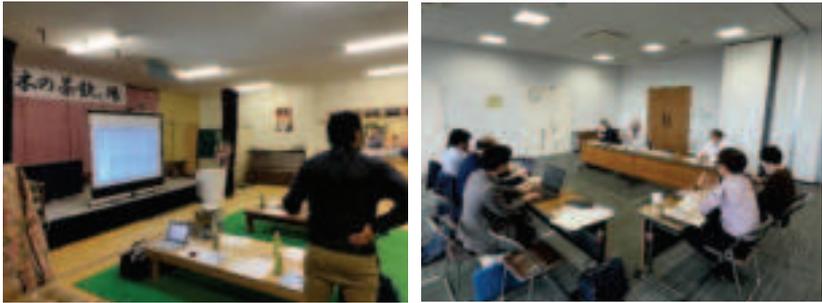
イ、ヒアリングの実施

新規団体においては、本事業の説明やスケジュール、提出書類などのインプットと同時に、PF 活動団体として、どのような活動目的・計画であるのかをヒアリングした。

継続団体についても新年度に向けての活動状況把握のために、ヒアリングを行った。

【成果】

新規団体に本事業の方針・計画のインプットを行うと同時に、継続団体に現状把握と今後の方針を確認し、支援計画に反映した。

行事名	地域循環共生圏 PF 事業活動団体ヒアリング
目的	①事業の目的やゴール、進め方、登場人物と役割分担と共有 ②今年度目標と達成するための手段の具体化（5W2Hの把握） ③共生圏を構築する上での、現状認識している課題やボトルネックの整理 ④事務所・EPO による環境整備支援のポイント抽出、具体的支援ニーズの把握
開催日等	令和4年 4月18日(月) 福岡筑後プラスチックリサイクル推進協議会（大木町役場） 4月19日(火) 株式会社山都竹琉（山都竹琉事務所） 4月25日(月) やめスマ研究所（株式会社アズマ） 4月26日(火) みやざきSDGsプラットフォーム（宮崎県NPO活動支援センター） 5月9日(月) 田主丸・未来創造会議（久留米市田主丸総合支所） 開催形式：対面 出席者：PF 活動団体担当者、九州地方環境事務所、EPO 九州
概要	九州地方支援事務局より、今年度の地域循環共生圏プラットフォーム事業の概要とスケジュールの説明を行った。 PF 活動団体から、今年度の主な取り組み、目指すべきゴールイメージ、ボトルネックなどの共有、質疑応答などが説明された。 PF 活動団体の現状や課題を聴くことができ、今後の支援策について具体的な方向性を共有した。 また、ヒアリングをふまえ、全国共通のフォーマットをもとに、各PF 活動団体の取組に応じた観点を整理し、九州地方支援事務局としての企画を盛り込んだ支援計画を策定した。 あわせて、全国事務局が開催するキックオフ情報交換会開催に向けて、PF 活動団体の発表資料作成に助言等を行い、側面支援した。
写真	

ウ、活動団体の環境整備支援

①八女が好き 8C！やめスマ研究所（新規）

a. 概要

PF 活動 団体の特徴	<p>八女地域の再生可能エネルギー事業者である株式会社アズマを中心に、地域新電力・広告代理店などのコアメンバーが共同申請した団体。10月にプラットフォーム名をアズマから「やめスマ研究所」に変更。</p> <p>「強い田舎を創りたい」をテーマに積極的にSDGsワークショップやステークホルダーミーティングを重ねて仲間づくりを進め、地域エネルギー循環や関係人口創出など実施していく事業のタネを模索している。</p>
環境整備 支援方針	<p>環境整備1年目の目標をプラットフォームに参画するステークホルダー獲得と市民に説明できるマンガラの整備に定めて注力してきた。その結果、市役所との連携が強化され、市民報告会での八女市市長・副市長の参加などもあり認知度が向上している。</p> <p>2年目以降では事業のタネのブラッシュアップを行い、個別のステークホルダーとの具体的な事業に関する渉外、地域のエネルギー循環に関する内部検討などを重点的に支援する。</p>

b. 現地訪問・団体とのコンタクト等

概要	<p>環境整備1年目は仲間づくり（ステークホルダーの獲得）と地域住民に発信できるマンガラの作成を大目標として掲げており、プラットフォームとしての基盤づくりの面を重視した支援を行った。</p> <p>いち企業によるビジネスではなく地域づくりの事業という面を強調するため、プラットフォーム名の名称変更を進言し、やめスマ研究所の立ち上げに寄与した。また、八女地域の活動者紹介、ステークホルダーを獲得するためのワークショップの設計、オンライン運営等の面で支援を行った。</p>
団体との コンタクト	<p>やめスマ研究所の複数のSDGsワークショップ・ステークホルダーミーティングに参加し、内容のブラッシュアップに向けて助言を行った。</p> <p>また、ステークホルダーミーティング開催時や成果共有会に向けた際にこまめな情報交換・意見交換で方向性を定めた。</p> <p>令和4年</p> <ul style="list-style-type: none"> 4月18日（月） 株式会社アズマ訪問 挨拶、プラットフォーム事業の概要説明等 4月25日（月） ヒアリング実施 6月10日（金） ワークショップ企画検討 7月4日（月） ステークホルダー参集プレワークショップ 7月30日（土） 第1回SDGsワークショップ 9月8日（木） プラットフォーム名変更打ち合わせ 9月27日（水） 第3回SDGsワークショップ 10月7日（金） ステークホルダーミーティング打ち合わせ 10月19日（水） 第1回ステークホルダーミーティング 11月4日（木） ステークホルダーミーティング振り返り 12月5日（月） 第2回ステークホルダーミーティング <p>令和5年</p> <ul style="list-style-type: none"> 1月11日（水） ステークホルダーミーティング進捗確認 2月7日（火） 成果物事前打合せ 3月11日（土） SDGsワークショップ・市民向け最終報告会

c. ステークホルダーミーティングの開催

行事名	八女が好き 8C！やめスマ研究所 第1回ステークホルダーミーティング
目的	PF 活動団体と地域で協働するステークホルダーが集い、多様な視点による活発な議論を行うと同時に、プラットフォームが掲げるビジョンについて共有する。
開催日等	<p>日時：令和4年10月19日（水）15:00-17:00</p> <p>会場：八女市役所 会議室</p> <p>開催形態：対面+オンライン</p>
概要	<p>出席者人数：25名（会場参加者20名、オンライン参加者5名）</p> <p>10月までに複数回開催してきたSDGsワークショップの参加者や市役所職員、公共交通機関、JAなど多様な主体を招き、プラットフォーム事業で何をしようとしているのか、ビジョンとして掲げる「強い田舎」とは何か、といったプラットフォームの概要説明を中心に行い、ステークホルダーの活動団体に対する理解を深めた。また、九州地方環境事務所の西田氏からプラットフォーム事業そのものの説明や、地域循環共生圏先進地がどのように変わったかを伝えることで、活動団体の取り組みが地域課題解決に資するものであると伝えた。</p> <p>やめスマ研究所では、キックオフとなる第1回のステークホルダーミーティングののち年度末までに計6回のステークホルダーミーティングを実施し、地域課題の深掘りと地域資源を活用した事業のタネの模索を行った。</p> <p><次第></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 主旨説明 これまでの取り組みについて 2. グループディスカッション <ul style="list-style-type: none"> ・地域と自分が1か月後、5年後、50年後にどうなっているか 3. 地域循環共生圏づくりPF事業について 4. 地域循環共生圏先進地域事例紹介 5. パネルディスカッション 6. 閉会
写真	

②株式会社山都竹琉（新規）

a, 概要

PF 活動 団体の特徴	活動団体は株式会社として、放置竹林の有効活用（竹粉による堆肥製造など）に取り組み、地域内資源循環を軸として、スマート農業とも連携した地域を目指す。活動地域となる熊本県山都町は、40年以上にわたり有機農業に取り組む地域として知られ、有機農業者数が国内で最も多い町である。2021年に自治体SDGsモデル事業「有機農業を核とした有機的な繋がりが広がる町の実現」が採択され、地域内の資源循環の機運が高まっている。
環境整備 支援方針	<p>主力商品の販路が山都町域外中心で結果的に地域資源が流出している。行政との連携が弱い（支援事務局側で十分な把握ができていない）など、プラットフォームを広げていく際のステークホルダーが参画できていないのが課題である。</p> <p>事業のタネとなるアイデア・商材が自社商品であるため、利益誘導が目的ではなく、地域の持続可能な未来に資する取り組みであるという納得感のある説明が必要。竹資源の活用は山都竹琉だけの問題ではなく、地域全体で解決すべき課題だというアプローチが求められる。</p>

b, 現地訪問・団体とのコンタクト等

概要	<p>山都町役場の協力体制構築のため、九州地方環境事務所と共に、山の都創造課SDGs推進室の担当の方に本事業内容の説明に伺い、協力を得ることができた。また、ステークホルダーミーティング（SHM）を2回開催する際には、企画提案や開催補助を行った。SHMを通して、SH同士の連携も深まった。</p> <p>なお、当団体よりコンタクト要望のあった「大和フロンティア」とは、森里川海事業の登壇者依頼の際に紹介し接続した。</p>
団体との コンタクト	<p>令和4年</p> <ul style="list-style-type: none"> 4月 8日(金) ヒアリング日程調整（メール） 4月 19日(火) 着手時ヒアリング・工場訪問（対面） 5月 6日(金) ヒアリング内容、活動内容確認（メール・電話） 5月 20日(金) キックオフ発表資料内容打合せ（メール・電話） 6月 2日(木) 地方経済総合研究所打ち合わせ（対面） 6月 28日(火) 山都町役場訪、事業内容説明、打合せ（対面） 7月 12日(火) ステークホルダーミーティング計画打合せ（電話） 8月 5日(金) SHM 日程相談（メール） 8月 23日(火) SHM 内容打合せ（メール・電話） 9月 1日(木) 山都町役場訪問事業内容説明、SHM 打合せ（対面） 9月 9日(金) 山都竹琉 SHM 開催補助（対面&オンライン） 9月 21日(水) 九州地方中間共有会発表内容打合せ（メール・電話） 10月 5日(水) 宮崎先進地域視察（対面） 11月 19日(土) 大和フロンティア殿接続打合せ（電話・メール） 12月 15日(木) 第2回 SHM、今後の進め方打合せ（オンライン） <p>令和5年</p> <ul style="list-style-type: none"> 1月 19日(木) 第2回 SHM 内容打合せ（オンライン） 1月 27日(金) 第2回 SHM 開催補助（対面） 2月 7日(火) 成果物提出に向けての事前打ち合わせ（オンライン） 2月 14日(火) 成果物ブラッシュアップ打合せ（電話） 3月 8日(金) 成果共有会ポスターセッション補助（対面）



c. ステークホルダーミーティング

行事名	山都竹琉ステークホルダーミーティング (SHM)
目的	今年度の(株)山都竹琉の活動報告と、作成したコンセプトシート (マンダラ) について議論することと、ステークホルダー同士の交流の場となることを目的とする。
開催日等	<p>【第1回 SHM】 (対面) 日時：令和4年9月9日(金) 16:00~18:00 場所：本さつまや</p> <p>【第2回 SHM】 (対面) 日時：令和5年1月27日(金) 16:00~18:00 場所：会場：そよ風パーク ホテル WINDY</p>
概要	<p>【第1回 SHM】 出席者：29名 (会場参加者26名、オンライン参加者3名)</p> <p>内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 地域循環共生圏とは (EPO九州) 2 事例発表 <ul style="list-style-type: none"> ・山都町 SDGs 事業概要 山都町役場 山の都創造課 SDGs 推進室 浜田美由紀氏 ・エネルギー利用とメタンガス 熊本県立大学 環境共生学部 教授・学部長 石橋康弘氏 ・二ホンミツバチで地域の魅力発信を 矢部高校林業科学科3年 増田君、奥村君、岸本君、田中君 ・スマート農業の可能性と農村集落の維持・持続性 エネルギープロダクト株式会社 森俊勝氏 ・ふるさとの未来へ種をまく～若い力で「農」の暮らしを築く～ 農事組合法人いちょう理事 中畠由博氏 3 ワークショップ <ol style="list-style-type: none"> a, 関係人口の増加 b, 地域経済活性化

	<p>【第2回 SHM】</p> <p>出席者：41名（会場参加者37名、オンライン参加者4名）</p> <p>内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 環境省挨拶・情報提供（九州地方環境事務所） 2 今年度の活動報告 株式会社 山都竹琉（川部寛行氏・野口慎吾氏） 3 事例発表 <ol style="list-style-type: none"> （1）株式会社 山都竹琉 取締役 野口 慎吾氏 （2）カダブラ株式会社 代表取締役 佐藤 譲氏 （3）矢部高校 林業科学科3年生 4 ワークショップ
<p>写真</p>	<p>・第1回 SHMの様子</p>  <p>・第2回 SHMの様子</p> 

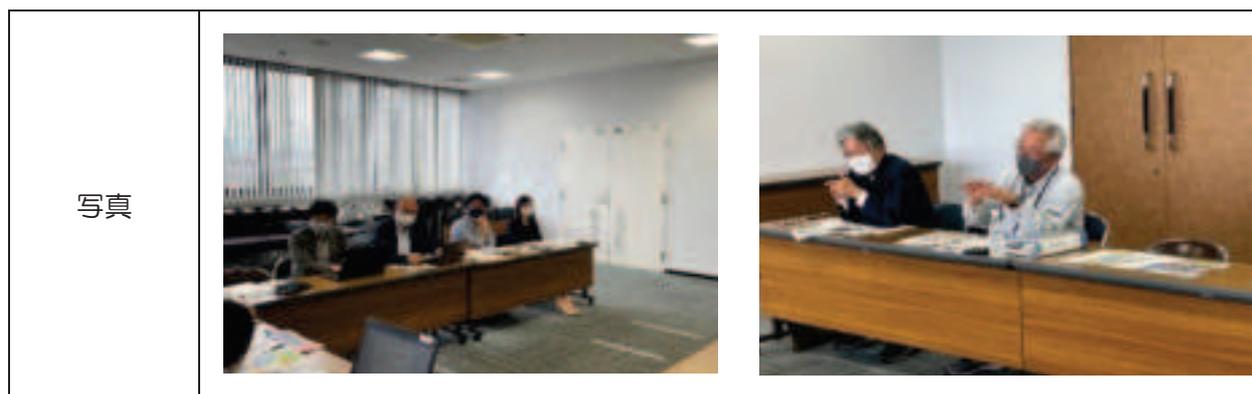
③田主丸・未来創造会議（継続）

a, 概要

PF 活動 団体の特徴	<p>久留米市の旧田主丸町を中心とした地域であり、久留米市の田主丸総合支所が事務局となり、以下の社会課題の解決を目指している。</p> <p>① カラタチの伐採された部分を現状、野焼きしているため、二酸化炭素排出や煙害など環境問題。</p> <p>② 田主丸財産区で平成 23 年度から販売している「かっぱの森」J-クレジットの地域での認知度が低い。</p> <p>③ 自然や農業生活に根差した神事や伝統行事が多く残るが、高齢化等によってその存続が危ぶまれる。</p>
環境整備 支援方針	<p>田主丸未来創造会議を基軸とした協働プラットフォームを目指しており、精力的に関係者を巻き込んでいる。</p> <p>同会議だからこそできる関係構築、事業展開など強みを際立たせる方向性について助言等を行う。</p> <p>また、本年度は、九州地方中間共有会の受入れ地域（開催地）を担うことで、地域の機運を高め、SH の意識の向上もねらいとした。</p>

b, 現地訪問・団体とのコンタクト等

概要	<p>前年度より 3 本の柱の活動テーマに沿って活動しており、またステークホルダーミーティング（フォーラム）開催に向けた関係者の巻き込みに尽力し、事業のタネの 1 つ「カラタチの有効活用」においては、総合支所内にプロジェクトチームが立ち上がり、より前進した印象。事業化支援に向けたメイン事業には、神事・伝統行事の担い手育成につながるツーリズム事業、「筑後川遺産」への登録準備など、まだまだ下地固めの段階か。</p> <p>一方でステークホルダーは、着実に増え、テーマごとの担い手も目途がつきそうである。取組の更なる発展に期待できる。</p>
団体との コンタクト	<p>令和4年</p> <p>4月 8日（金） ヒアリング日程調整、事務局体制確認（メール）</p> <p>5月 9日（月） ヒアリング・PF 状況確認（対面）</p> <p>5月 20日（金） キックオフ発表資料打合せ（メール・電話）</p> <p>6月 23日（木） 中間共有会相談（メール・電話）</p> <p>7月 11日（月） 第1回未来創造会議、中間共有会打合せ（対面）</p> <p>8月 25日（木） SHM 計画シートを元に打合せ（電話）</p> <p>9月 13日（火） SHM・中間共有会内容打合せ（対面）</p> <p>9月 14日（水） そよ風ホール Wi-Fi 確認。会場担当者打合せ（対面）</p> <p>10月 28日（金） Jクレジット講演会・神事エクスカージョン 田主丸 SHM（未来創造フォーラム）開催支援</p> <p>11月 24日（木） 幹事会報告打合せ（メール・電話）</p> <p>12月 21日（水） 第2回田主丸・未来創造会議報告（メール）</p> <p>令和5年</p> <p>1月 18日（水） 事前打合せ内容相談・日程調整（メール・電話）</p> <p>2月 8日（水） 成果物提出に向けての事前打ち合わせ（オンライン）</p> <p>3月 8日（水） 成果共有会ポスターセッション補助（対面）</p>



c, ステークホルダーミーティング

行事名	田主丸・未来創造フォーラム 2022
目的	PF 活動団体と地域で協働するステークホルダーが集い、多様な視点による活発な議論を行う。また、地域循環社会形成に向けての田主丸・未来創造会議の向かおうとしている方向性の共有や、協力者の発掘と連携の強化の場とする。
開催日等	日時：令和4年10月28日（金）13:30-16:00 会場：久留米市田主丸そよ風ホール 開催形態：対面
概要	出席者 60名（会場参加者のみ） 久留米市、にじ農業協同組合、久留米グリーンツーリズム協議会、ふるさと管理総合株式会社、ダイハツ工業株式会社、一般社団法人サステナブルコミュニティ共創機構、株式会社B2S、ナカムラ興業株式会社、きりかぶ工房、添田木材有限会社、久留米工業大学、添田町役場、田主丸町観光振興会、田主丸財産区、環境省地域政策課、九州地方環境事務所、いであ株式会社、株式会社アズマ、株式会社山都竹琉、公益財団法人地方経済研究所、GECO、EPO九州 基調講演 ① 「地域循環共生圏の推進について」佐々木真二郎地域循環共生圏推進室長 ② 「地域活性化と地域循環社会について」吉弘拓生氏地域活性化伝道師 事例発表 ① 伐採したカラタチの再利用 ② Jクレジットなどの森林の価値向上 ③ 神事伝統行事の保存活用 意見交換
開催状況の写真等	 

④福岡筑後プラスチックリサイクルループ推進協議会（継続）

a. 概要

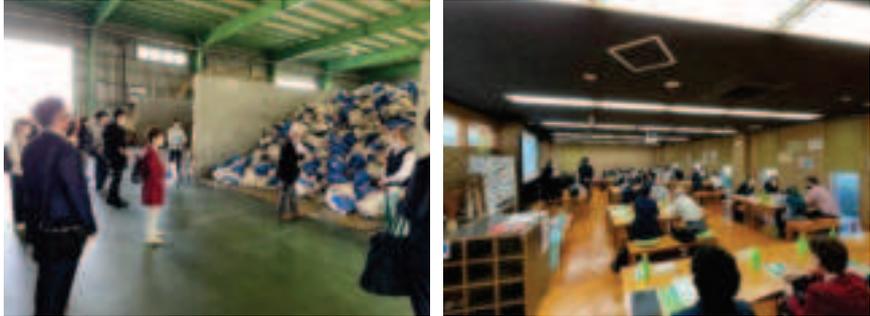
PF 活動 団体の特徴	令和 3 年度環境省グッドライフアワードを受賞した環境先進自治体の大木町を中心に、周辺自治体（みやま市・柳川市・筑後市・大川市）及び企業、学識経験者からなる協議会で、高品質プラスチック循環を目指している。 再生プラスチック製品の開発、地域住民向けの啓発活動を通じてリサイクルの意識変容を呼びかける。
環境整備 支援方針	5 市町を交えた組織体の構築に課題があり、大木町以外の自治体の参画が限定的な状況。自治体の参画に温度差が大きい状況を改善すべく大木町の担当者を通じて 5 市町の合意形成と作業分担を図るための場を設計する。

b. 現地訪問・団体とのコンタクト等

概要	福岡県大木町を中心とした自治体に加え、学者、プラスチック再生企業、市民団体などを巻き込んだ大規模なプラットフォームとして活動しており、ダイナミックな活動が展開されている。 環境整備 2 年目を迎え、前年度から課題であった事務局体制の強化及び運営事務の棚卸しを重点事項として支援を行った。当初の目標であった大木町以外の自治体参画による事務局体制強化とは異なるが、九州大学事務への作業分担により運営体制は強化された。
団体との コンタクト	令和 4 年 4 月 18 日（月） ヒアリング 5 月 20 日（金） キックオフ相談対応 6 月 21 日（火） メーリングリスト運営対応 7 月 8 日（金） 計画予算書相談対応 8 月 17 日（水） 大木町役場訪問、事務局体制強化打合せ 9 月 29 日（木） 大木町役場訪問、事務局体制強化打合せ 10 月 26 日（水） ステークホルダーミーティング打合せ 11 月 26 日（土） ステークホルダーミーティング 12 月 23 日（金） 九州大学精算業務委託相談対応 令和 5 年 1 月 31 日（火） 成果資料相談対応 2 月 10 日（金） 成果共有会に向けた事前ヒアリング 3 月 1 日（水） 事業進捗確認

c. ステークホルダーミーティングの開催

行事名	くるくるまわそう意見交換会
目的	PF 活動団体と地域で協働するステークホルダーが集い、自治体・民間事業者・市民団体など多様な主体による取り組みを共有し、多様な視点による議論を行う。
開催日等	日時：令和 4 年 11 月 26 日（土） 会場：福岡県大木町 おおき循環センターくるるん 開催形態：対面

<p>概要</p>	<p>出席者人数：31名</p> <p>大木町のゴミ回収施設やプラスチック回収・選別施設（YK クリーン）の現地視察を行ったのち、有識者による講演とプラットフォームに参画しているステークホルダーからの活動報告を行った。</p> <p>活動報告だけにとどまらず、グループディスカッションによって多様な主体がそれぞれの立場で意見交換を行う場を創出した。</p> <p><次第></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会（九州地方環境事務所 地域脱炭素創生室 西田氏） 2. 協議会活動報告（九州大学 近藤教授） 3. 有識者講演（持続可能な社会をつくる元気ネット 鬼沢氏） 4. 各主体からの活動報告 <ul style="list-style-type: none"> ・自治体の取り組み（柳川市・みやま市） ・市民活動団体の取り組み（ベスタ） ・企業の取り組み（井上企画） 5. 意見交換（グループディスカッション） 6. 講評
<p>開催状況の 写真等</p>	

⑤みやざきSDGsプラットフォーム（継続）

a, 概要

PF 活動 団体の特徴	<p>宮崎県内でのSDGsの認知度向上と活動理念の浸透に取り組む。昨今の宮崎県内では、産業界や教育機関を中心に、SDGsへの取組みの機運が高まっている。その機運をさらに加速させ、宮崎県内各地に、SDGs活動登録団体・企業がそれぞれSDGsに取り組んでいる姿を理想とし、課題解決や推進取組の相談を「みやざきSDGsプラットフォーム」で受け付け、支援する体制づくりを目指している。</p>
環境整備 支援方針	<p>産学金労官各分野におけるステークホルダーの巻き込みができつつあることと、MSEC（県立高校のコンソーシアム）や宮崎大学などの若者との連携が図れていることが強みである。</p> <p>一方で、発起人会においては、業界団体のトップが名を連ねていただいたが、宮崎県全域が活動地域となるため、エリアやテーマを絞った実務者レベルでの「作業部会」「分科会」（実務者会議）の実現に向けてのフォローを行う。</p>

b, 現地訪問・団体とのコンタクト等

概要	<p>プラットフォームの方向性を模索する中で、具体的な取組の足掛かりとしてテーマごとに開催された「分科会」が設置された。竹の利活用をテーマとした分科会の中心を担う株式会社コーポレーション・クリエイトとは、株式会社山都竹琉の先進地視察で訪問するなど、現場も見学しながら竹の有効活用の意見交換ができた。</p> <p>また、武蔵野美術大学との連携で、山の廃材などを利用した「山のダイゴミブリジェクト」なども進んでいる。事務局とは頻りに連絡を取り、状況報告、相談いただいている。</p>
団体との コンタクト	<p>令和4年</p> <ul style="list-style-type: none"> 4月26日(火) みやざきSDGsPFヒアリング、関係者訪問（対面） 5月17日(火) キックオフ発表資料打合せ（メール・電話） 5月20日(金) PF進捗状況確認（対面） 6月23日(木) SHM計画シート内容打合せ（メール・電話） 7月19日(火) PF進捗状況確認（対面） 8月18日(木) 幹事会提案事項打合せ（メール・電話） 9月1日(木) 8/31幹事会報告・進捗確認（電話） 9月6日(火) 山都竹琉宮崎視察先相談（メール・電話） 10月5日(水) みやざきSDGsプラットフォーム事務局訪問（対面） 10月12日(水) 中間共有会発表資料打合せ（メール・電話） 11月8日(火) SHM事前打合せ（オンライン） 11月29日(火) みやざきステークホルダーミーティング（対面） 12月14日(水) みやざき再エネ研修会（オンライン） <p>令和5年</p> <ul style="list-style-type: none"> 1月6日(金) 事業化支援資料送付・概要説明（メール・電話） 1月13日(金) 進捗状況確認、事前打合日程相談（メール・電話） 2月8日(水) 成果物提出に向けての事前打ち合わせ（オンライン） 3月8日(水) 成果共有会 ポスターセッション補助（対面）

写真等	
-----	--

c, ステークホルダーミーティングの開催

行事名	みやざき SDGs プラットフォームステークホルダーミーティング
目的	PF 活動団体と地域で協働するステークホルダーが集い、多様な視点による活発な議論を行う。同時に、平田氏の COP27 参加報告（基調講演）を聞くことで、脱炭素社会への意識醸成を図る
開催日等	日時：令和4年 11 月日 会場：みやざき NPO センター会議室 開催形態：対面
概要	1. 出席者 17 名 宮崎県、宮崎放送、宮崎県木材協同組合連合会、宮崎ガス、シンクオブア ザーズ、宮崎県環境科学協会、九州地方環境事務所、EPO 九州 2. 内容 主催者挨拶（代表幹事 平野巨也氏） 環境省挨拶（九州地方環境事務所） 基調講演「COP27 エジプト会議から地域で取り組む緩和と適応」 地球温暖化防止全国ネット 事務局長 平田裕之氏 質疑応答 取組状況紹介
開催状況の 写真等	

エ、ブロックネットワーク形成の取組

① 環境展示会「エコテクノ 2022」ブース出展・パネル展示

地域循環共生圏政策の啓発の場となり、プラットフォーム構築事業を発信した。

【成果】

ブースでの展示や、来客対応において、地域循環共生圏の啓発に繋げることができた。また、セミナーを併催することで、金融機関をはじめ自治体関係者・来場企業など他分野の主体へアプローチすることができた。

本年度のエコテクノ展におけるセミナーはパートナーシップ基盤強化事業と連動し、地域での ESG 投資と事業者が SDGs 達成に向けて活動する意義についても取り上げた。

行事名	環境展示会「エコテクノ 2022」ブース出展・パネル展示	
目的	EPO 九州・ESD 活動支援センターの活動紹介と共に、地域循環共生圏政策の啓と、九州地方の PF 活動団体の活動を紹介するため、西日本最大規模の環境展示会において、ブース出展・パネル展示を行う。また、環境関連団体との情報交換、連携強化を行う。	
開催日等	日時：令和 4 年 7 月 6 日（水）-7 月 8 日（金） 場所：西日本総合展示場（北九州市） エコテクノ展総入場者数： 7 月 6 日（水） 4,949 人 7 月 7 日（木） 4,845 人 7 月 8 日（金） 3,955 人 合計 13,749 人	
出展概要	1. パネル展示 2. 地域循環共生圏事業の啓発活動（ブース来客対応） 3. 北九州環境ビジネス推進会（KICS）他、環境関連団体との連携強化	
写真		

② 九州地方中間共有会の開催

【成果】

新規団体には活動のヒントを得られる、継続団体には活動の成果を整理する場となったと同時に、プログラムを通してまた、プログラム外でも交流・連携を深めることができた。また、各団

体の活動発表内容から、自地域活動とのリンクなどのアイデアもあり、関係者の連携も出来た。
例)

- やめスマ研究所と大木町の連携→やめスマ研究所のワークショップに大木町が参加。
- みやざき SDGs プラットフォームと山都竹琉の連携→先進地視察で宮崎のSH を訪問。
- 田主丸のSH の学生団体とやめスマ研究所の連携→やめのWS に学生団体参加など。

行事名	九州地方中間共有会
目的	団体間のノウハウ交流や学び合い、事業への活用やネットワーク形成に加え、関係者（全国事務局含む）が団体の活動状況を把握することを目的とする。
開催日等	日 程：令和4年10月27日（木） 時 間：14:00-17:00（※13：30 受付開始） 会 場：久留米市田主丸そよ風ホール多目的研修室 開催形態：対面・オンライン、ハイブリッド開催 主催：九州地方支援事務局 協力：田主丸・未来創造会議、久留米市田主丸総合支所
概要	参加者： ○環境整備活動団体5団体 ○事業化支援2団体 ○有識者 NPO 法人持続可能な社会をつくる元気ネット理事長 鬼沢良子氏 ○全国事務局及び関係者（環境省地域政策課・GEOC・いであ） ○九州地方支援事務局 （九州地方環境事務所、EPO九州、地方経済総合研究所） 内 容： （1）環境整備団体による取組発表 （2）取組発表に対する助言・フィードバック （3）事業化支援団体、有識者・全国事務局を交えた意見交換 プログラム 1. 新規活動団体発表（7分×2団体） 2. 新規団体に向けたフィードバックと質疑 3. 継続団体発表（8分×3団体） 4. 継続団体に向けたフィードバックと質疑 5. 意見交換・ワークショップ テーマ「プラットフォーム形成で大切なもの」 6. 閉会
アンケート	・森林価値向上について、八女も基幹産業に林業があるため、非常に興味深く聞かせていただきました。 ・アズマさんの若い力にふれて、エネルギーをもらいました。熱量、パッション ・この会場に来られている方々のように、「ありたい未来」をワクワクしながら想像でき、創造できる仲間をどうやって増やしていくか。これからも吟味していきたい。



③ 沖縄・奄美支援事務局との情報交換

奄美群島・沖縄地域の PF 活動団体については、沖縄奄美自然環境事務所といてあ株式会社沖縄支社が協力して環境整備支援を行い、適宜情報交換等を行った。

11月9日(水)に行われた奄美・沖縄地区中間共有会にはオンライン参加した。

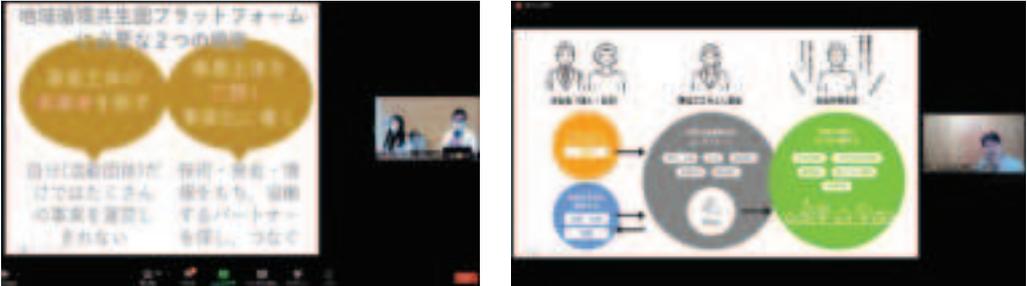
オ、GEOC が主催する会議等への参加

① 情報交換会（キックオフミーティング）への出席及び開催支援

【成果】

全国の PF 活動団体の活動内容の把握、連携先の発掘、九州地方の PF 活動団体の情報交換が促進された。同時にコミュニケーションタイムのファシリテートを、地域状況を把握した EPO が担当することで、地方の団体同士の交流が進んだ。

行事名	情報交換会（キックオフミーティング）
目的	地域循環共生圏づくりに取り組むにあたっての基本となる知識やマインドを共有し、発表や他団体との交流を通して活動における気づきやヒントを得る。
開催日等	令和4年6月7日（火）13:00-17:00 PF 事業キックオフミーティング 6月8日（水）9:30-15:00 PF 事業キックオフミーティング 話を聞きに行く！タイムファシリテーター 開催形式：オンライン 出席者：環境整備活動団体 27 団体、 環境省（環境計画課、民間活動支援室、地方環境事務所） GEOC、地方 EPO、いであ沖縄支社
概要	<内容> 1 日目 ・地域循環共生圏プラットフォーム事業説明 『この事業で大切にしていること』 環境省大臣官房環境計画課企画調査室室長 佐々木真二郎氏 『キックオフミーティングの作り方』 地球環境パートナーシッププラザ（GEOC） 江口健介氏 ・卒業団体による講演

	<p>『循環する地域をつくる コーディネート機能と実践』 東近江三方よし基金 事務局長 山口美知子氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PF 活動団体（環境整備2年目）11 団体の取組内容の発表 ・団体別「話を聞きに行くタイム！」 <p>2日目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PF 活動団体（環境整備2年目5団体、1年目6団体）の取組内容の発表 ・団体別「話を聞きに行くタイム！」 <p>環境計画課（地域政策課）ならびに全国事務局による事業説明、卒業団体による講演等をおして、PF 活動団体の取組前提となる方向性を共有した。</p> <p>取組内容発表では、九州各地域の取組についての発表を行い、他地域と取組みを共有した。</p> <p>話を聞きに行くタイムでは、取り組みに興味のある団体や関係者がブレイアウトルームに分かれて、団体ごとの質疑応答や相互交流の場となった。進行を地方 EPO が務め、円滑な会議進行を行った。</p>
写真	

② 地域政策課 PF 事業担当者との意見交換会

【成果】

本省の地域循環共生圏担当の方との意見交換で、事業全体のねらいや枠組みを理解すると共に、支援事務局としての気付きや課題を伝え、全国事務局の関わり方や、全国行事のあり方等においても参考にするという言葉を得られた。

行事名	地域政策課 PF 事業担当者との意見交換会
目的	九州地方の PF 団体の進捗状況共有や、地方 EPO として本事業の課題や気づきについて、本省地域政策課と意見交換を行った。
開催日等	日時：令和 4 年 6 月 8 日（水）16:00～17:30 会場：GEOC ミーティングスペース 開催形態：対面
概要	出席者人数 11 名 環境計画課（地域政策課）7 名、GEOC 2 名、EPO 九州 2 名 <ul style="list-style-type: none"> ・九州地方 PF 団体進捗状況共有 ・本事業の課題や気づきについての意見交換

③ 共有会・作業部会・事業形成会合への参加

【成果】

全国事務局及び地方 EPO 間での意見交換により、本事業における環境整備課程のプロセス分析や重点アクションシートのブラッシュアップを通して、環境整備支援での課題についての共有ができ、地域支援のあり方・関わり方について再確認及び改善のヒントが得られた。

行事名	共有会
目的	本事業の環境整備に係る進捗状況に関する情報の共有や意見交換を行う。
開催日等	日時：令和4年5月17日（火）14:00～17:00 開催形態：オンライン
概要	1 参加者： 地方 EPO 、 環境省（民間活動室、地域政策課）、GEOC（オブザーブ：アドバイザー委員、地方環境事務所、請負三社） ・事業概要と年間予定の共有 ・ヒアリング・支援計画の共有 ・キックオフ企画の共有と依頼 ・意見交換

行事名	第1回作業部会
目的	本事業における環境整備過程のプロセス分析や加速化の方策検討などの意見交換を地域の伴走支援者である地方 EPO 間で行い、地域プラットフォームの進捗を測る指標について議論する。
開催日等	日時：令和4年8月18日（木）13:00～15:30 会場：GEOC 開催形態：ハイブリッド開催（オンライン参加）
概要	1 参加者： 地方 EPO 、 環境省（民間活動室、地域政策課）、GEOC（オブザーブ：アドバイザー委員、地方環境事務所、請負三社） 2 内容 ・事業化支援チームによる指標検討と KPI ツリー の共有 ・【事前準備の共有】 1 地域あたり約5分×9 地方 「地域プラットフォームに起きた最も大きな変化とその要因と思われる出来事について」 ・グループワーク① 地域プラットフォームの進捗を測る指標のプレスト ・グループワーク② 地域プラットフォームの進捗を測る指標“3つ” 絞り込み

行事名	第2回作業部会
目的	・環境整備と事業化支援のプロセスで重点と思われるポイントをまとめた「重点アクションシート」の共有とブラッシュアップを行う ・環境整備と事業化支援それぞれの活動団体の取組内容を共有し、地域循環共生圏の構築に必要な地域コーディネーター（運営チーム）の取組とそれに対する「地

	域支援」の内容についての検討
開催日等	日時：令和5年1月13日（金）13:00～16:00 会場：東京ウィメンズプラザ 視聴覚室 開催形態：ハイブリッド開催（対面参加）
概要	1 参加者： 地方EPO、環境省（民間活動室、地域政策課）、GEOC（オブザーブ：アドバイザー委員、地方環境事務所、請負三社） 2 内容 【資料説明】 <ul style="list-style-type: none"> ・「重点アクションシート」について ・事業化支援の実施内容について ・事業化支援希望調書の昨年度との変更点について 【意見交換①】環境整備の過程で得られた知見を共有する <ul style="list-style-type: none"> ・「重点アクションシート」について質疑応答 ・個人ワーク 「重点アクションシートの」項目ごとに活動団体（1EPO1団体分）取組状況を整理する ・グループワーク シートに貼り出し、シート内容の過不足を話し合う ・全体共有 【意見交換②】 <p>本事業における「事業化支援」を分解する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明と質疑応答 ・公的な中間支援機能としてのEPOが事業化支援の伴走支援でできること/すべきこと/ 専門家をアサインすること（＝他に頼ること）の整理

行事名	事業形成会合
目的	環境整備等に係る進捗状況に関する情報の共有、意見交換。
開催日等	日時：令和4年12月13日（火）9:30～12:30 開催形態：オンライン（Zoom）
概要	1. 参加者： 地方EPO、地方環境事務所、地域政策課、民間活動支援室、請負、GEOC 2. 内容 【議題1】中間共有会の振り返り <ul style="list-style-type: none"> ・所感（ブロック開催、意見交換の感想、関係性の変化など） ・今後の支援方針 （1地方あたり4分程度で、EPO→事務所の順でコメント） 【議題2】R5年度事業内容について <ul style="list-style-type: none"> ・地域循環共生圏概念図の更新 ・事業終了時及びR6年度以降のイメージ ・R5年度事業の主な変更点

	<ul style="list-style-type: none"> ・業務スケジュール <p>【議題3】R4 年度末の予定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度選定に向けた公募資料・スケジュール及び依頼事項 ・第2回アドバイザー委員会及び作業部会企画案 ・成果共有会企画案 <p>シートに貼り出し、シート内容の過不足を話し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体共有 <p>【意見交換②】</p> <p>本事業における「事業化支援」を分解する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明と質疑応答 ・公的な中間支援機能としてのEPOが事業化支援の伴走支援でできること/すべきこと/
--	---

④ 成果共有会

【成果】

年度の取りまとめとして打合せを行うことで、今年度、特に注力した取り組みやPFの変化について確認できた。同時に成果共有会発表資料や成果物に於いて、「この部分を表現してほしい」などの九州地方支援事務局の意見を反映してもらうことで、成果物のブラッシュアップ、成果共有会の活動発表での表現等につながった。

行事名	成果物提出に向けてのオンライン事前打ち合わせ
目的	<p>成果報告会前にPF活動団体と九州地方支援事務局との意見交換の場を設けることで、プラットフォームの環境整備活動の一層の充実(成果物のブラッシュアップ)を図る。</p> <p>また、PF活動団体の年間を通じた振り返りの場としても機能する。</p>
開催日等	<p>令和5年</p> <p>2月 7日(火) 11:00~12:00 事務所・EPO 打合せ 13:00~14:00 やめスマ研究所 14:30~15:30 株式会社山都竹琉</p> <p>2月 8日(水) 9:30~10:30 事務所・EPO 打合せ 10:30~12:00 田主丸・未来創造会議 13:00~14:30 みやざきSDGsプラットフォーム</p> <p>2月10日(金) 13:30~14:00 事務所・EPO 打合せ 14:00~15:30 福岡筑後PRL推進協議会</p> <p>開催形式：オンライン 出席者：PF活動団体担当者、九州地方環境事務所、EPO九州、地方経済総合研究所</p>
概要	<p>成果物(地域版マングラ・発表資料・事業のタネシート・ステークホルダーリスト・最終報告書・目標シート)の確認、活動内容の進捗確認、資料説明に対する質疑応答を行った。</p>

	支援事務局とPF活動団体が、成果物案を事前に共有し、活動内容の進捗確認と、発表資料に盛り込むべき点等について助言を行い、各資料のブラッシュアップを実施した。
--	--

行事名	成果報告会への出席及び開催支援
目的	環境整備団体の取組内容の発表を通して、地域プラットフォームでの活動進捗状況を確認し、他地域との連携を図る。 また、ポスターセッションでは、たくさんの活動団体との対話の機会の創出を目的とする。
開催日等	日時：令和5年3月8日（水）13:30～19:30 開催形態：対面 出席者：環境整備活動団体27団体、 環境省（地域政策課、民間活動支援室、地方環境事務所） 地方EPO、GEOC 有識者、アドバイザー委員
概要	各PF活動発表において、1年間のプラットフォーム形成の活動状況、ステークホルダーの巻き込み等を確認し、また、ポスターセッション、意見交換では、団体の活動テーマに沿った意見交換が行われ、他地域の取組を参照擦ると共に、ネットワーク形成が行われた。 ＜次第＞ 1. 環境整備団体のプレゼンテーション 「1年間もしくは2年間のPFづくり活動報告」 2. ポスターセッション ・他地域との意見交換
開催状況の写真等	   

カ、事業化支援団体への情報提供・情報収集

行事名	事業化支援団体に関する情報提供・定例会参加、事業化支援団体連絡会参加
概要	<p>【鹿島市ラムサール条約推進協議会】 支援チームの事務局（株式会社いであ）、専門家（柳原氏、幸福氏）の専門的知見から、事業促進のための助言、鹿島での進捗共有、改善点について意見交換を行い、着実に計画が進んでいる。 地域循環共生圏事業と並行して、鹿島市ラムサール条約推進室が中心に取り組み、里山保全の分野で、保全地域の調査など、相乗効果をもたらした。</p> <p>【一般社団法人 MIT】 一般社団法人 MIT は、対馬の大部分を占める森林の利活用、管理する団体設立に向けて、計画策定と共に、積極的に先進地視察を行い、専門家からの指導や助言を受け入れている。全国事務局からの信頼も厚く、地元の関係者だけでなく、全国の有識者の協力体制もできつつある。森林活用の事業化支援団体のモデル団体としても注目が集まっている。</p> <p>【事業化支援団体合宿（連絡会）への参加】 鹿島市ラムサール条約推進協議会、サステナ八尾、一般社団法人 MIT、リボンアートフェスティバル、徳之島の活動発表があり、各団体の発表毎に意見交換があり、他地域の活動事例の参照の場となった。また、受入地域の鹿島市の干潟や酒蔵などの見学もあり、地域資源の活かし方やSHに巻き込みについても言及が行われた。なお、コロナ禍以降、初の対面開催ということで、ネットワーク形成の貴重な場となった。</p>
コンタクト状況	<p>令和4年 4月20日(水) 鹿島定例会（オンライン） 6月27日(月) MIT定例会、森里事業相談（オンライン） 8月10日(水) 第1回事業化支援団体連絡会（オンライン） 10月6日(木) MIT定例会、中間共有会参加依頼（オンライン） 10月12日(水) 鹿島定例会、中間共有会参加依頼（オンライン） 11月24日(木)～25日(金) 事業化支援団体合宿 in 鹿島（対面）</p> <p>令和5年 3月16日(木) MIT定例会（オンライン） 3月25日(土) 鹿島酒蔵ツーリズム視察（対面）</p>
写真	 